

中学校 2年生 保健体育科学習指導案

1 単元名 大単元「第4章傷害の防止」 小単元（6 応急手当の意義と基本）

2 単元について

小学校では、交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止、すり傷や鼻出血などの簡単な手当など学習している。

ここでは、傷害の発生には様々な要因があり、それらに対する適切な対策によって傷害の多くは防止できること、応急手当は傷害の悪化を防ぐことができることを理解できるようにする必要である。また、包帯法や AED(自動体外式除細動器)の使用を含む心肺蘇生法などの応急手当ができるようになることが必要である。

このため、本内容は、交通事故や自然災害などによる傷害は人的要因、環境要因及びその相互の関わりによって発生すること、交通事故などの傷害の多くはこれらの要因に対する適切な対策を行うことによって防止できること、また、自然災害による傷害の多くは災害に備えておくこと、災害発生及び発生後に周囲の状況に応じて安全に行動すること、災害情報を把握することで防止できること、及び迅速かつ適切な応急手当の技能と傷害の防止に関する課題を解決するための思考力、判断力、表現力等を中心として構成している。

3 単元の目標

知識・技能	健康な生活と患者の予防傷害の防止について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解することができるようとする。
思考力・判断力・表現力等	健康な生活と患者の予防傷害の防止について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習などにより、科学的に考え、判断し、それらを表現することができるようとする。
学びに向かう力・人間性	健康な生活と患者の予防傷害の防止について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようとする。

4 生徒の実態と指導観

応急手当がなぜ必要なのはなぜか？どんな手当が基本なのか知識や手当の仕方については理解できていない生徒が比較的に多い。そこで、生徒の実態からも応急手当の意義と基本を理解させるために実際の参考資料を使用し、実習を行い応急手当の基本を理解させ、考えさせる。学習シートに自分の考えや意見、感想を書き出し、周りの友達と意見交換をする。実習の前に応急手当の一般的な流れや通報の仕方も理解する。各グループで、傷の手当(止血法、固定法)や心肺蘇生法の仕方を実習で身につけさせる。

5 単元及び学習活動に即した評価規準

健康安全への知識・技能	健康安全についての思考力・判断力・表現力等	健康・安全について、主体的に学習する態度
<ul style="list-style-type: none"> 交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生することを理解している。 交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できることを理解している。 自然災害などによる傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できることを理解している。 応急手当を適切に行うことによって、傷害は防止することができることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 傷害の防止についての学習に自動的に取り組もうとしている。

6 指導と評価の計画

時間	主な学習内容	知識	思・判・表	学び
1	傷害の原因と防止			
2	交通事故の現状と原因			
3	交通事故の防止			
4	犯罪被害の防止			
5	自然災害に備えて			
6	応急手当の意義と基本 ・応急手当が必要なのはなぜだろうか。 ・きずの手当はどんな流れで行ったらよいだろうか。	○		

7 本時の展開

① 本時の目標

- ・応急手当が必要なのはなぜか、どんな手当てが基本なのか理解しよう。
- ・傷の手当はどのような流れで行うのか理解しよう。

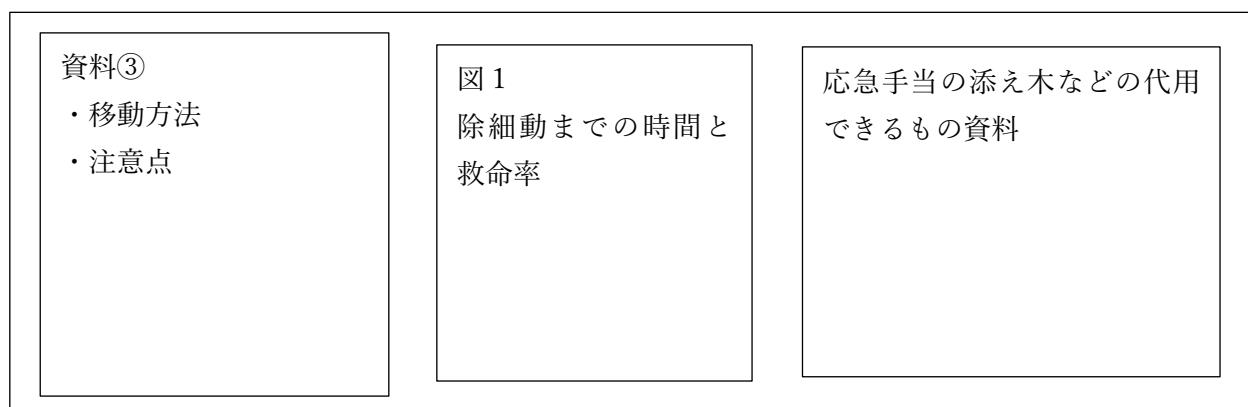
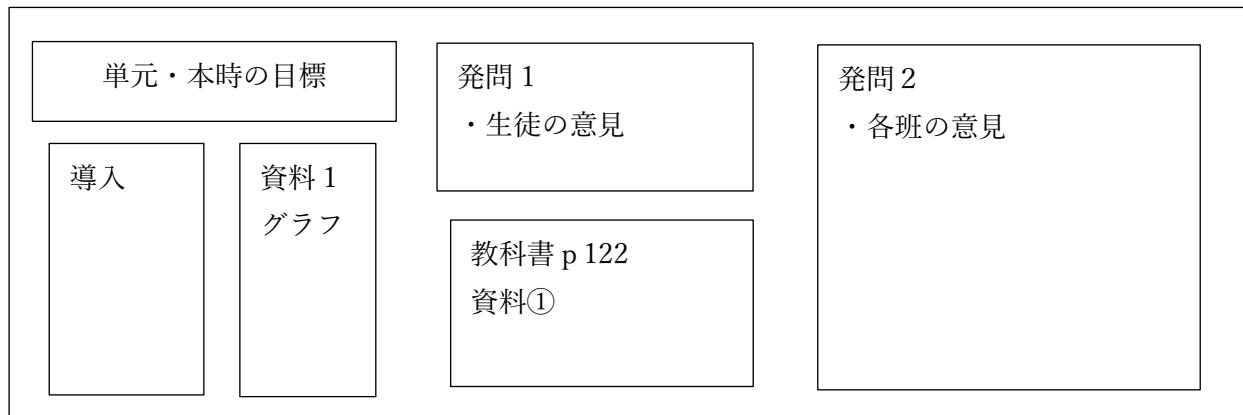
② 展開

段階	学習活動【学習内容】	指導上の留意点 ◇評価
導入 8分	<p>挨拶</p> <p>発問 2つの資料を見て、このような場面に居合わせた時、あなたにはどんなことができるか。</p> <div data-bbox="285 707 738 977" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>予想される生徒の反応：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急車を呼ぶ ・大丈夫かどうか聞く ・安全な体制にする ・ハンカチで止血する。 </div>	<p>ワークシート配布</p> <p>○教科書 P122(課題をつかむ)を使用して、応急手当がどのくらい知識があるのか理解させる。</p> <p>○机間指導をする。</p> <p>○生徒を指名し、発言させる。</p>
1	<p>【応急手当の意義を知る】</p> <div data-bbox="269 1100 1405 1179" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発問1：応急手当が必要なのはなぜだろうか。</p> </div> <p>各グループで考える。 3人程度指名、発表</p> <div data-bbox="269 1302 754 1583" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>予想される生徒の反応：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・死なせないため ・少しでも助かる可能性を上げるために ・悪化を防止することが出来るため </div> <p>【心肺蘇生法の基本を身につける。】</p> <div data-bbox="269 1718 1421 1785" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発問2：心肺蘇生法はどんな流れで行ったらよいだろうか。</p> </div> <p>・各グループで考え、用紙に考えをまとめ、発表</p>	<p>○4つにグループ分けする。</p> <p>○生徒を指名し、発言させる。</p> <p>○応急手当は適切な手当を行うことで、ケガや病気の悪化を防いだり、生命を救ったりすることができるなどを伝える。</p> <p>○教科書 p 122 資料①を見せて、その場で救命処置をすれば約2倍助かる可能性が高まることが伝える。</p> <p>○前と同じグループに分ける</p> <p>○場面をイメージして倒れている人に遭遇した場合の対応をグループで考えさせ、用紙に考えをまとめさせる（今回は心肺蘇生法の流れを考えさせ</p>

<p>予想される生徒の反応： 通報→応急手当（心肺蘇生）</p>	<p>たいため、急病者の反応確認をしたところ心肺停止であったと統一させる）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書p123資料②を用いて各グループの考え方を照らし合わせながら応急手当の流れを理解させる ○p123資料③を用いて、移動が必要な場合の判断と移動方法（移動させる際の注意点も）を伝える ○移動方法は教科書に記載されていないため持ち込み資料を用いて生徒の理解につなげさせる ○応急手当の流れを先に理解させたうえで、その中の心肺蘇生法について学ばせる ○心肺蘇生法を見本でみせながら説明する ○胸骨圧迫とAED使用方法を次回の実習のイメージにつなげさせる ○心肺停止後、除細動（電気ショック）が遅れるほど救命率が下がることをグラフで用いて説明し、人任せにせず勇気をもって行動してほしいことを伝える ○応急手当が必要ない場合もある。その体位についても理解させる。 <p>【きずの手当の基本を身につける】</p>
<p>各グループに分かれて包帯で固定の仕方、止血の仕方の実習を行う。</p> <p>予想される生徒の反応： 上手く止血の仕方や固定の仕方ができない。</p>	<p>○各グループで行う。</p> <p>○教科書P128～129を見て説明しながら止血法と固定の仕方を身につける。</p> <p>○止血法は清潔で厚みがある、出血している部分を十分に覆うことができるガーゼや布などをきず口に直接当てて強く押さえて止血する（4分以上）必要であると伝える。 (固まりかけた血液がガーゼ等と一緒ににはがれ、再び出血する可能性があるため。)</p> <p>○三角巾を使って固定の仕方を伝える。 前腕の骨折の場合、患部の上と下の関節を固定し、巻いた部分が締まりすぎていないか、30分ごとに調べ、締まりすぎていたら緩めることを</p>

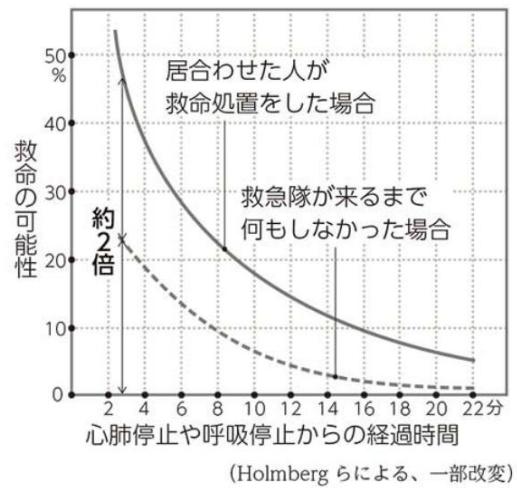
		<p>伝える。</p> <p>○包帯がない場合にはラップが使えること。レジ袋の両端を切れば三角巾として使えること。添え木が無い場合新聞紙を丸めたり、雑誌や傘などがあることを伝える。</p> <p>○生徒が必ず実習を行えるように時間配分をして指導する。</p> <p>◇応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、心肺蘇生法などを行うことができる。</p> <p>【A評価とするポイント】 応急手当の意義について理解し、ワークシートに考えを書き出したり、実習を通して心肺蘇生法や固定法などができる。</p> <p>【C評価とするポイント】 応急手当の意義を理解することができず、ワークシートに考えを書き出すことや実習を通して心肺蘇生法や固定法などができるっていない。</p> <p>【努力を要する生徒への手立て】 応急手当の例を資料や映像を使い説明し、生徒の隣で応急手当の実習を行い指導する。</p>
まと め 分	○応急手当はなぜ必要なのかについて授業を通して学んだことや今後の生活で応急手当をどのように生かしていくかをワークシートに記入する。	○授業を通して考えたこと・今後の生活に生かしていきたいことをワークシートに書かせ、発表させて再度意思決定させる。 ○全員がワークシートに記入しているか机間指導を行う。 ○ワークシートを回収する。

8 板書計画



資料

資料 1 応急救手の開始時間と救命の可能性の関係



- 応急救手の開始が早いほど救命の可能性が高い。
- 救命処置をすれば、しない場合と比べて救命の可能性が約2倍になる。

【図 1】除細動までの時間と救命率、その 1

